

# 仏教保育

10

Oct.

伝えよう <sup>いのち</sup> 生命の尊さ <sup>ほとけ</sup> の心

第34回全国仏教保育福島大会シンポジウムより

## テーマ 「現代に生きる仏教」



星野英紀氏



千葉公慈氏



戸田了達氏



高木正尊氏

### 危機管理における三つの課題

(星野英紀氏) 福島は、ご存知のとおり3・11の大震災によって未曾有の原発事故が起きました。その最大の被災地である飯館村は原発所在地から40キロ離れています。事故発生後、最初の指示が「3キロ以内は屋

去る7月30日、福島県郡山市で開催した第34回全国仏教保育福島大会において「現代に生きる仏教」をテーマに、シンポジウムが行われました(概要は本紙9月号・No.629に既報)。「他者の喜びを自らの喜びとする人は、生きることの素晴らしさを施してくれる。逆に自他の『いのち』を軽視した虐待などの残酷な事件も私たちが生活している世界で起きている。だからこそ『いのち・生命尊重・生きる力』とは何かを考えましょう」というテーマに込められた願いを、高木正尊氏のコーディネートにより3人のシンポジスト(星野英紀氏、千葉公慈氏、戸田了達氏)が語ってくださいました。

内退避」というものでした。つまり、外には出るなという程度のものでした。確かに発生現場に近ければ危険だという認識を誰もが持ち、指示どおり屋内で待機していました。しかし、放射能は風次第。風に乗ってどこにでも飛んで行きます。やがて避難区域も拡大されていきました。しかし、リアルタイムで

の情報もなく避難勧告・指示なども公表されませんでした。パニックを防ぐという理由もあつたのかも知れませんが、それが住民を塗炭の苦しみに追い込むことになりました。そして悟りました。「情報は、あなた頼り」ではダメ。自分で判断することの大切さを。特に、子どもを預かっている我々教師たちは、日ごろから危機管理における勉強し、自分で判断するのは当然の務めであると思いました。

電所が建立されました。私たちは仏教を説く立場の者です。皆さんは仏教保育を司る教師です。子どもを守り・育てるのが務めです。「状況判断は自分で。近隣との交流は密に。危険と紙一重の原発は不要」。原発事故で調べ得た三つの今後の課題です。

お釈迦さまの「七不衰法」の教え

(千葉公慈氏) 「合掌の姿に花は咲く。福島で学ぶ生命尊重の保育」。この大会テーマには、仏教の生命線である生命尊重が凝縮されたテーマだと思いました。「合掌の姿に花は咲く」の花を、私は『いのち』と置き換え「合掌の姿に『いのち』咲く」のだと教えられた気がしました。皆さん、どうでしょう? 「合掌」というところを『心を寄せる』と読み替えてみませんか? 「心を寄せる」姿に『いのち』咲く、素晴らしいテーマだと思いませんか!

仏教における第一の戒律が「不殺生戒」ですから、地球上のすべての宗教の第一戒律に「生命尊重」を謳っていることは実に意義深いことです。ご当地福島でも多くの方が命を奪われました。しかし、私は



確信しました。先ほどの大井千

加子さんのお話を伺っていて

『誰も死んではいないのだ』と

いうことを。『いのち』は、吹

き込むことができるのだと実感

できたのです。仏教では『開眼

供養』という仏像に、『いのち』

を吹き込む供養があります。も

とより、仏像が歩いたり体温を

持つなどということはあり得ま

せんが、そこに、『いのち』を吹

き込めることができるという思

いで執り行います。

東日本大震災、恒例のように

襲いかかる風水害、テロリスト

による無差別殺人等々、目を覆

うような悲惨な現実がありま

す。これらを通して今、私たち

が考えなくて、いつ考えるのか

と。とは言っても、私たち人間

は現実と理想の狭間で揺れ動

く存在です。その現実の中で、

「子どもたちに如何にして理想

を伝えていくか」です。理想を

追求していく中で、現実から目

をそらさず直視し、時には眼差

しを高く、時には足元を見なが

ら、そのギャップを埋めていく

…。大事なことです。

皆さん、お釈迦さまの教えで

この世が減びないための教え、

七つあるのをご存知ですか？

「七不衰法(しちふすいほう)」

という教えです。

ろう。

(二つ) 集まって決めた会議は、

議決どおり行動すること。

(三つ) 古いしきたりや風習を

守る人々であること。

(四つ) 年上(年配者)を敬う

部族であること。

(五つ) 子どもを大事にする部

族であること。

(六つ) 社会を守ってきた祠・

社には手を合わせて拝み、供物

を絶やさぬこと。

(七つ) よく勉強する人たちを

大切にすること。

これらは、現代にも通じる教

訓ではないでしょうか。

大人だからこそ子どもが見え

る。理想を知っているから現実

を直視できる。現実を直視して

いるから理想を追うことが出来

る…。そう思います。

### 出会った人と一緒に歩こう

(戸田了達氏) 私は寺の住職

をしながら保育園の園長をして

いますが、「保育園があつて良

かつたなあ」と、つくづく感じ

ています。それは、仏教に興味・

関心のなかつたお父さんやお母

さんに仏教の教えを直接お伝え

できるからです。こんな素晴ら

しいチャンスを得たことに、

いつも感謝しています。

仏教とは、人が幸せになるた

めの教えだと思えます。だから、

幸せになりたい人は仏教を学べ

ば良い。そう思っています。

では、私たちが求めている幸

せとは何でしょうか。仏教が求

める幸せってどのようなことを

指すのでしょうか。これが、私

のいちばんのテーマなのです。

皆さんは、子どもたちが幸せ

に育って欲しい、そう願って保

育をしておられると思います。

では、幸せについて考えられた

ことはありますか？

例えば、物やお金がたくさん

あれば幸せだと思っている人も

いるでしょう。健康で長生きさ

れる人もたくさんいます。「で

も、お金はない」、その人は不

幸なのでしょうか。幸・不幸は、

自分の中で勝手に決めているの

ではないでしょうか。自分が出

会った(人・物)ものの中で判

断して、この人と出会って良

かつた、あの人と関わりを持っ

たばかりにと嘆く出会いもある

かも知れません。

しかし、私たちは出会った人

と一緒に歩いていくしかないの

です。そこには幸せも不幸せも

ない、ともに歩いていくしかな

いのです。出会った人と、ひた

すら現実という道を歩いてい

く、たとえ苦しい道だとしても、

それが今の自分の幸せなのでは

ないか。そう思えば、ともに歩

く人の尊さが分かるようになり

ます。皆さんは、保育園・幼稚

園の先生という職についたので

す。そこで出会った子どもたち

と全力で向かい合って一緒に歩

んでもらいたいなあ、と思い

ます。

「現代に生きる仏教」きよう

のテーマですが、生と死、ある

いは人間の悩みや苦しみ、それ

らをとことん見つめて幸せにな

る道をお釈迦さまは説かれまし

た。それが仏教だと思ってい

ます。

(星野英紀氏) 「仏教福祉」

という言葉があります。福祉は

宗教、仏教の究極を目指すこと

です。だが、社会福祉の中で

は「仏教福祉」は具体的な方法

としては成立しないと言いま

す。このことは、日々の保育に

ついてとも言えるのではないかと

思います。様々な保育・教育の

中で問題が起きたり課題が出て

くる。そんな時、仏教における

考え方、理念、方法などで一応

問題を解決します。しかし、次

の保育の中で起こってくる様々

な事象の即回答には繋がらな

いってこともある。仏教にとつ

て、それはちよつと気の毒に思

うことがあります。

ですから、園長先生や主任の

先生方が日々研鑽される中で

「そうか、仏教ってこうなんだ」

と、わざとらしくない日々の教

育に生かしていく。それが立派

な仏教保育だと私は思います。

(千葉公慈氏) 私は「包まれ

ている」のだと思っています。

つまり「保育そのものが仏教に

包まれている」。お釈迦さまは

80年の生涯のうち51年間にわた

る修行生活を送られました。人

間教育に捧げた生涯でした。

人は2度死ぬと言います。1

度は肉体の死です。肉体の死

は誰も避けられません。2度目

は、その死が忘れられるが、生

きている誰かに記憶として受け

継がれて蘇ってきます。保育と

はお釈迦様の智慧を受け継がれ

た仏教そのものであると提

言したいと思えます。

(戸田了達氏) 法華経には

「あなたも仏さまですよ」と謳

われています。

仏教という引き出しがそばに

あつて取り出せるというもので

はありません。元々自分の中に

あつて、人間が生きていく上で

大切なものと思つているものを

整理したものが仏教だと思

います。

したがって、私たちが大事な

ことだと子どもたちに諭すこと

は、すべて仏教なのです。です

から、「仏教」そのものが「保育」

でもあると思つています。

◇

\*3人3様、それぞれのお立場

で仏教・生命尊重について語っ

てくださいました。

### 妙心寺派社会事業協会

## 「社会事業従事者研修会」

川島由里子

7月20日(水)～22日(金)の暑い夏の盛り、二泊三日の日程で開催された。坐禅、朝課、作務、粥座(朝食)と続く一連の朝の行事は例年通りであるが、新しい参加者にとっては、

自分と向き合う厳しい時間であったと思う。

今年の特別講座は、ジャーナリストの猪熊弘子先生。会場も本山妙心寺から天台宗青蓮院の書院に場所を移し、畳に座っての講演「『死を招いた保育』が教えてくれたこと」であった。実際にあった保育中の子ども



の事故死を取材されたご経験のもとに、子どもの「いのち」を守る保育はどこにあるのかについてお話しされた。

親が良かれと自ら選んだ園で、わが子を亡くすということがどういうことなのか。

子どもの人生も親の人生も変わってしまうこと。わが子を託す園を自分で選んだということ

で、親の悲しみは二重に深いものになること。その悲しみは生涯続くこと。そしてそれは、親

だけでなく保育者にも言えること。一つ一つ胸に染み入り、私

たちが心しなければならぬことは、事故が起きたらどうするか(救命)ではなく、事故を起こさない保育のあり方を徹底して

考え、実践することなのだと学んだ。

講演の最後に、事故を起こさない保育の根底にあるのは、「当たり前前のことを並外れた愛をもつて行う」ことだと言われた

ことが、心に残っている。

講演の後、青蓮院の執事長、東伏見光晋師の法話「空について」をお聞きした。「空」の概念は聞いただけでは把みきれない。しかし過去・現在・未来に

捉われず、自分の物差しや分別を放し、あるがままの自分を見

つめながら生きることが大事な

のだと、師のメッセージを受け取った。

その後、青蓮院門跡と曼荼羅殿を拝観した。青龍殿は清水寺

舞台の5倍の広さを持つ大舞台があり、京都市内一望の景観は

圧巻であった。

最後は、ふるしき研究会代表の森田知都子氏のふるしき講座。すたれて居場所を失いつつあるふるしきを復活させ、新し

い命を吹き込みたいと精神的に活動されている先生である。ふるしきの歴史や文化的意味に触れながら、実際にふるしきを帽子やリュック、エコバッグや

ティッシュケースカバーにしたり、瓶や本をおしゃれに包んだり、楽しく有意義な研修であった。

夏の京都は暑くて大変だが、それに勝る深い学びを得られた三日間であった。

### 天台宗

## 「第65回天台保育全国大会 比叡山延暦寺大会」報告

小林昭寛(言問幼稚園)

今年の天台保育全国大会は、8月27日(土)～28日(日)福岡市博多グリーンホテルを会場として開催されました。

九州の天台保育連盟加盟園は4園あります。同地区での初開催という事で、熊本大震災の被害からの復興も道半ばではあります。加盟園の皆様、及び九州西教区の諸大徳様のご尽力により、無事開催される事となりました。

開会式では、御来賓の天台宗参務社会部長角本尚雄師から、

ご挨拶頂きました。角本師の御自坊では、熊本大震災で大きな被害がありました。師より、今大会は是非開催をしたいとの強い要望を下され、様々な面でご尽力ご高配下さいました。

第一講は、玄清法流統管の梶谷隆幸師による「玄清琵琶」についてのお話と、梶谷師及び木戸清賢師による琵琶演奏を拝聴しました。

天台宗の伝承法流の一派である玄清法流は、玄清法印を開祖とし、一千数百年の歴史を持つ

と、



「荒神祭り」を継承しておられ、成就院にて行われる琵琶法楽は、福岡県無形文化財に指定されているそうです。また、様々な場所での公演活動など、新たな取り組みもされているとの事で、伝統と革新の両方に触れ、琵琶の音色に厳肅な心地がしました。

続いての第二講は、落語家で天台宗僧侶の露の団姫（つゆのまるこ）師と、団姫師のご主人様で、太神楽曲芸師の豊来家大治朗さんによる、落語「仏教落語」と講演「まるこ&大治朗の子育てぶっちゃけ夫婦トーク」を拝聴しました。団姫師はテレビ番組「ぶっちゃけ寺」の出演で有名になりましたが、天台宗の僧侶として、落語を通じて



様々な活動をしていらっしゃる。また、大治朗さんとの講演では、お二方の人柄そのままの、親しみやすく飾らないお話しに、聴衆も引き込まれ、たくさん質問が来ました。

夕食懇親会では、清興の大治朗さんによる太神楽曲芸にドキドキしたり、和やかな雰囲気の中に、各地域の先生方との懇親を深めることができました。

翌日は、妙香庵を参拝しました。庵は、宗祖伝教大師最澄様入唐の際、航海の無事を祈願し、帰国後に発願された全国六所宝塔のうち、九州守護の為に建て



られた安西宝塔があった宝満山の麓にあります。そちらには、最澄様が発願された折お世話になった横大路家に贈られた、「千年家の火」が現在護持されており、遙かな時空を超えた求道の心に触れ、改めて身の引き締まる思いがしました。

その後、太宰府天満宮を参拝し、内容の濃い二日間の研修を終えることができました。

研修期間中、天台宗保育連盟の九州地区の加盟園各位、九州西教区の諸大徳様、連盟事務局の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



### 真言宗豊山派保育連合会

## 「第61回教職員研修大会」報告

事務局長 水野義昭

8月26日(金)、猛暑の最中、

いただきました。

真言宗豊山派保育連合会第61回教職員研修大会が109名の参加で行われました。本研修会は毎年夏季に、真言宗豊山派宗務所での一日研修と全国各地で行なう地方研修（一泊二日）を1年おきに開催しています。

閉式の言葉の後、猥下とご来賓の先生方と共に記念撮影をし、第一講の3階会場に移動。第一講は露の団姫先生（落語家・天台宗僧侶）の仏教講話『仏教落語』と『仏教に学ぶ子育て』。前編は先生の新作落語で、青年が亡くなってから巡り会う多くのほとけ様とその意味を面白く、そして、わかりやすく語られ、「自分の役割を自分の持ち場で頑張る」ことの大切さを感じさせる内容でした。後編もお釈迦さまの教え「すべての命は平等であり大切にしなければならぬ」を心に刻み、とらわれない心が幸せになる秘訣であり、その心を育むことが子育てだと結ばれました。語り口の巧みさと心のこもったお話しぶりは、人と人の接し方に大きな参考となるものでした。

次いで安藤文隆会長より激励の言葉をいただき、続けて永年勤続者表彰で10年及び5年勤続の先生23名が表彰されました。猥下よりご垂示で「私の保育園も昔、この連合会に加盟し、また人形劇団ピッコロを主宰して全国の園を訪問したことを懐かしく思います。そして、現代は多難な時代ですが仏教保育を大きな基盤として、幼児教育に専念してください。」とお言葉を

第二講、食事作法『食の大切さ』は根本一弘先生（中野小鳩幼稚園園長）より、食べ物を通して愛

念してください。」とお言葉を

第二講、食事作法『食の大切さ』は根本一弘先生（中野小鳩幼稚園園長）より、食べ物を通して愛

情をいただくことであると教示され、合掌・食前のことばで昼食の時間となりました。

午後の第三講は、福田りゅうぞう先生(あそびダンス作家)による保育実技『保育に役立つあそびダンス・遊び歌』。全国各地で親子コンサートや幼稚園・保育園・子育て関連施設などで活躍の先生は元気がいっぱい。「アキレスケンタウルス体操」「ポップコーン」「じしゃくのパワー」等々、ジャンプ、ふれあいあそび、リアクションを楽しむ等々、子どもたちと楽しく体を動かすヒントが満載。保育士であった先生の体験を通して組み立てられた講義は、子ども言葉と行動をしっかりと見つめながら、響きあう保育がいかに重要なのかを実感させられた内容でした。

閉会式では参加者代表に修了証が授与され、そして、代表よりお礼の言葉が述べられました。大澤聖隆理事長の「保育の現場を大切に、思いやる心・仏心をもって子どもたちに接してください。」の言葉と、来年度の本山長谷寺での研修大会開催を告知し、本大会を終りました。

最後に、恵まれた会場をご提供いただき、また会場設定にご

尽力いただきました真言 厚く感謝申し上げます。宗豊山派宗務所の皆様



# 真宗大谷派 「第60回仏教大学保育講座」

五島 満 (銀の鈴幼稚園)

仏教保育大学講座は、8月1日(月)〜8月4日(木)にわたり開催され、真宗十派からなる真宗教団連合会の主催により第60回を迎えた。今回は浄土真宗本願寺派の担当によって運営され、大勢の保育者が全国から参加した。

本講座は初年度から5年未満程度の職歴の保育者の講座である。ただ単に保育技術や方法論を学ぶためのものではなく、日々の保育の中で人と向き合い、自分を見つめ、自らの人生

に目覚めて生きることを開設の願いとしている。

西本願寺御影堂で開講式が行われ、その後、五十嵐雄道先生より、ホスピス活動を通じた、「いのち」についての基調講義をいただき、四日間の講座が始まった。その後は龍谷大学、ホテル洛兆にて、基調講義や日々の保育を振り返り、班別討議、全体討議を繰り返しながら研鑽を深めた。二日目の夜には工夫を凝らした保育者ならではの楽しい夜のつどいも行われた。



# 平成29年度 幼児教育関係概算要求の概要

文部科学省は過日、平成 29 年度予算概算要求・要望を財務省に提出しました。幼児教育振興における要求趣旨として、『幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることに鑑み、幼児教育無償化に向けた取り組みを段階的に進めるとともに、幼児教育の質の向上及び環境整備を促進することにより、幼児教育の振興を図る』と謳っています。

幼稚園関係では、私立高等学校等経常費助成費補助の一般補助として 303 億円 (前年度比 8 億円増) を要求し、園児一人当たり単価 23,523 円で前年度と比して 1.2% 増になっています。幼児教育振興全体では 475 億 8,300 万円を計上しており、このうち就園奨励費については前年度と同額での事項要求となっています。

## 1) 幼児教育無償化に向けた取り組みの段階的推進 (事項要求)

### ・就園奨励費

32,272 百万円 (32,272 百万円)

8 月に開催された「幼児教育無償化に関する関係閣僚・与党実務者連絡会議」で取りまとめられた方針を踏まえ、幼児教育無償化に向けた取り組みを「環境整備」と「財源確保」を図りながら段階的に進めることとし、その対象範囲や内容等については予算編成過程において検討するとしています。

## 2) 幼児教育の質の向上

736 百万円 (254 百万円)

### ◆幼児教育の質向上推進プラン

222 百万円 (222 百万円)

#### ①幼児教育の推進体制構築事業

203 百万円 (203 百万円)

地域における幼児教育の質の向上を図るため、地域の幼児教育の拠点となる幼児教育センターの設置をはじめ、幼稚園・保育所・認定こども園等を巡回して助言等を行う「幼児教育アドバイザー」の育成や配置など、自治体における幼児教育の推進体制の検討・整備を行う。

【委託事業→都道府県・市町村】

#### ②幼児期の教育内容等の深化・充実調査研究

19 百万円 (19 百万円)

効果的な指導方法や実効性のある学校評価など、幼児期における教育内容等について、より深化・充実するための調査研究を実施する。

【委託事業→都道府県・市町村・大学、教育研究団体等】

### ◆幼稚園の人材確保のための取り組みの推進

389 百万円 (新規)

幼稚園に優秀な人材を確保するため、人材登録制度の構築や離職防止をはかる研修など先導的な取り組みを支援するとともに、事務の負担軽減を図るための ICT 化を支援し、幼稚園教員が働きやすい環境を整備する。

#### ①幼稚園の人材確保支援事業 108 百万円 (新規)

【委託事業→地方公共団体・幼稚園関係団体】

#### ②園務改善のための ICT 化支援

281 百万円 (新規)

【補助率→国 3/4 事業者 1/4】

### ◆幼稚園教育要領の普及・啓発

116 百万円 (22 百万円)

幼稚園教育要領について、各幼稚園が適切な教育課程を編成し実施する上での参考資料を作成するとともに、新幼稚園教育要領の改訂の趣旨や理念等について、周知・徹底を図る。

## 3) 幼児教育の環境整備の充実

14,575 百万円 (5,637 百万円)

### ◆認定子ども園等への財政支援

13,072 百万円 (5,136 百万円)

認定子ども園等への施設整備・園舎の耐震化・防災対策に要する経費の一部を補助するとともに、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有促進や研修等の実施費用を支援する。

【負担割合→(認定こども園施設整備の場合)

国 1/2 市町村 1/4 事業者 1/4】

### ◆私立幼稚園の施設整備の充実

1,503 百万円 (501 百万円)

緊急課題となっている耐震化に取り組むとともに、学校法人立幼稚園等の施設のアスベスト対策・防犯対策やエコ改修等に要する経費の一部を補助することにより、幼稚園の環境整備を図る。

【補助率→1/3 (Is 値 0.3 未満 1/2)】

# 平成29年度 保育対策関係概算要求の概要

厚生労働省は過日、平成 29 年度予算の概算要求・要望を財務省に提出しました。待機児童の解消に向けた整備量の拡充とともに、切れ目のない保育利用を支援する構成が強く打ち出されています。

●「入園予約制」で育児休業の中断を解消。●「サテライト型小規模保育事業所」で3歳児の行く先確保。●「保育専門調査官」を配置し保育所保育指針の改定の周知等々です。「ニッポン一億総活躍プラン」の3本の矢の一つである「夢をつむぐ子育て支援」が掲げられており、総額では前年度比 8,108 億円(2.3%)増の 31 兆 1,217 億円となっています。

## ■ 第2の矢「夢をつむぐ子育て支援」

### 1) 待機児童の解消

#### ◆ 保育の受け皿の拡大

(712 億円《うち当別会計 24 億円》)

●待機児童の解消に向け、「待機児童解消加速化プラン」に基づき、平成 29 年度末までに必要となる保育の受け皿を確保するため、保育園等の整備などによる受け入れ児童数の拡大を図る。

●保育園等の設備等の際に地域住民との合意形成を進める自治体・保育園等における「地域連携コーディネーター」の配置を支援する。

#### ◆ 多様な保育サービスの充実 (126 億円)

●0歳児の育児休業終了後の「入園予約制」の導入を支援する。

●3歳児以降の継続的な保育サービス確保のため、3歳以上の子どもの受け入れに特化した保育園等における3歳未満対象の「サテライト型小規模保育事業所」の設置を支援する。

●「放課後子ども総合プラン」に掲げる平成 31 年度末までに約 122 万人分の受け皿を確保するという整備目標の 30 年度末までの達成を目指す(計画の前倒し)とともに、放課後児童支援員等の人材確保対策などを推進する。

#### ◆ 保育人材確保のための総合的な対策

(330 億円《うち特別会計 130 億円》)

●2%相当の処遇改善を行うとともに、保育士としての技能・経験を積んだ職員について、全産業の女

性労働者と賃金差がなくなるよう、4万円程度の追加的な処遇改善を実施する。

●保育士の宿舎を借り上げるための費用を支援する「保育士宿舎借り上げ支援事業」について、その対象要件(保育園等に採用されてから5年間)を見直し、対象者を拡大する。

●人材情報サイトの開設による求人情報の提供、就職希望者向けの保育園等の見学会の開催など、新卒の人材確保や潜在保育士の再就職支援、就業継続支援の取り組みを行う市町村を積極的に支援する。

●保育、看護、介護の各分野における人材確保のため、全国の主要なハローワークに設置された「福祉人事コーナー」を拡充するとともに、関係機関との連携強化を図るなど、就職支援の取り組みを強化する。

●保育事業主による「魅力ある職場づくり」のための雇用管理改善の取り組みについて、助成金の拡充を行う。

## ■ 総合的子育て支援の推進

#### ◆ 妊産婦から子育て期にわたる切れ目のない支援の実施 (207 億円)

●分娩施設が少ない地域において、新規に開設する場合や産科等を増設する場合等の費用を支援する

●子育て世代包括支援センターの全国展開に向け、その施設促進を図るとともに、地域の実情に応じて産前・産後サポート事業、産後ケア事業を実施する。

#### ◆ 児童虐待防止対策の強化・社会的養護の推進 (1,411 億円)

●児童相談所、市町村の体制の強化及び専門性の向上を図り、相談機能を強化する。特に、児童相談所等における弁護士等の活用の促進や、市町村における要介護児童等への支援拠点の運営支援、要保護児童対策地域協議会の機能強化を図る。また、児童相談所全国、共通ダイヤル【189】の利便性向上のための更なる改善を図る。

\*その他「ひとり親家庭等の自立支援の推進、児童扶養手当や就学等に必要な資金など、効果的な支援策を打ち出しています。(2,079 億円《うち特別会計 59 億円》)

### 事務局日誌

- 9 / 13 「仏カリ」「仏教保育」編集会議  
事務局会議
- 9 / 27 こどものくに「たんぼぼ版」編集会議

### 子どもの「いのち」を守るための防災対策

9 月は防災の月。各所で防災訓練やその対策についての講習等が行われました。どちらの幼稚園・保育所でも「いざい」というときの備えに対策を講じておられることでしょう。日本は地震大国。何処の地域にあっても「安心・安全」な場所はないとか。子どもたちの「いのち」を守る対策は十分でしょうか？

今、『家族で学ぶ地震・防災はじめての一步』著者、大木聖子（慶応義塾大学准教授・地震学者。東京堂出版）という本が、売れ行きを伸ばしているそうです。その引用で恐縮だが、一部を紹介しましょう。

#### ●保育室の中で危険なもの

・時計が落ちてくる・蛍光灯が落ちてくる・窓ガラスが割れる・本棚が倒れてくる etc... (普段から、蛍光灯や本棚、ロッカーなど、危ないものを意識しておくこと)

●おうちの中で気を付けること  
・家具は絶対に手で押さえないこと。(棚は固定する。揺れの最中は、絶対に手で押さえてはいけない)・キッチンには食器棚、電子レンジなどに注意など etc... (食器棚の扉は揺れても開かないような対策を。重い家電は粘着テープなどで固定する)。

こうした具体的な対策を普段から子どもたちに意識付けられるように、ゲーム感覚で遊びながら学べる対策が満載されています。

### 編集後記

■今年のノーベル医学生理学賞が東京工業大学の大隅良典栄誉教授に贈られました。受賞理由は「オートファジー(自食作用)の仕組みの発見」とか。難しいことは分かりませんが、病氣治療の開発への道に繋がるのだと言います。日本のノーベル賞受賞は昨年に続いて25人目だそうで、同胞に身を置く者として誇らしい思いに尽きます ■3年ほど前、第32回夏季五輪の開催が東京に決まりました。二度目の東京オリンピックがもたらす経済効果もさることながら、子どもに夢や希望を与えてくれる。加えて、その国の歴史に残る国家的なイベントとして国民は喜びに沸いたものでした。その開催に伴う建造物をはじめ、費用等で議論が交わされています。子どもたちの夢・希望を壊さないでと、心から願っています ■明治の初めに義務教育が国民に課され、国は親の貧富や職業に関わらずすべての子どもに等しく教育を受けさせる方針を定めました。それから一世紀余が過ぎ、教育レベルの高い国になりました。そして未就学でも幼・保で保育・教育が受けられる時代へと移ってきました。今、待機児童問題が益々吹き荒れています。運動会で湧く季節。青空の下、すべての子どもたちが活気にあふれる歓びの声が聴きたいと願っています。(O・I)

公益社団法人 日本仏教保育協会  
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4  
ホームページ <http://www.buppo.com/>  
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519  
発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満  
毎月1回1日発行(1部315円)



### 仏教保育綱領

- 慈心不殺 生命尊重の保育を行なおう
- 仏道成就 正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
- 正業精進 よき社会人をつくる保育を行なおう

### 紙芝居 おしやかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面) ○四つの門(13場面) ○おさとり(16場面) ○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600) ※分売不可

脚本・絵/諸橋精光 画面38.2x26.5cm 豪華化粧箱入り

保育現場や布教活動の場で幅広くご利用いただけるよう、おしやかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子どもでも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文  
お問い合わせ  
すずき出版